

耐性菌対策に関する相談

相談5：CRE検出時の検査、環境調査について

(相談内容)

入院患者からCREが検出されました。周囲の患者の細菌検査や環境調査が必要ですか。

(回答)

1. CRE

CREとはカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE:Carbapenem-resistant enterobacteriaceae)のことであり、2012年9月より感染症法の五類感染症の届出疾患(全数把握)となっています。感染症治療において切り札となるカルバペネム系抗菌薬が効かないだけでなく、フルオロキノロン系薬やアミノグリコシド系薬などにも耐性であることが多く、治療が難渋することが知られています。腸内細菌科細菌であるために、無症状で腸管内等に保菌されることもあります。さらに、菌種を越えて耐性遺伝子が伝播するために、アウトブレイク等を見逃しやすいとも言われています。

2. CRE検出時の対応

厚生労働省医政局地域医療計画課長名事務連絡「医療機関における院内感染対策について」(平成26年12月19日)では、保菌も含めて1例でも確認されれば、アウトブレイクに準じた厳重な感染対策を実施することとされています。

3. 対策

感染防止対策は、標準予防策+接触予防策です。他の耐性菌と対策は同様ですが、上記の特徴より保菌者も含め隔離等の病室配置を慎重に検討し、標準予防策や接触予防策の実施状況とともに排泄ケアの手順や物品の管理、水回り環境の整備等の遵守確認が必須となります。一番重要なことは、院内で情報共有を行い、院内伝播を防ぐための徹底した感染防止対策を職員全員で実施することです。

アウトブレイク時に、検討される保菌調査や環境調査に関しては、検出の人数、検出検体、検出病棟、患者さんの背景、ケア・処置・看護度、感染防止対策の状況等に応じて検討する必要があります。保菌調査を行う場合の検体は、便又は直腸スワブでよいでしょう。また、通常の便培養検査ではCREを検出することは困難ですので、必ず検査目的がCREであることを検査部門に伝えることが必要となります。

4. 報告・相談

「1例目のCREに対し対応を行ったが検出が続く」や、「どのようにアウトブレイク対応をしてよいか分からない」などに関しては、保健所に報告相談し迅速な対応が必要です。また、高知県の医療関連感染対策地域支援ネットワーク拠点病院による実地支援等も可能ですので、是非活用して下さい。

参考文献

- 1) 日本環境感染学会：多剤耐性グラム陰性菌感染制御のためのポジションペーパー

第2版, 2017

- 2) 多剤耐性菌管理のための CDC ガイドライン 2006
- 3) 厚生労働省ウェブサイト感染症法に基づく医師および獣医師の届出について
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-140912-1.html>
- 4) 厚生労働省医政局地域医療計画課長名事務連絡. 医療機関における院内感染対策について. 医政地発 1219 第 1 号, 平成 26 年 12 月 19 日
- 5) 多剤耐性菌アウトブレイクの対応&対策, グラム陰性耐性菌を中心にーケーススタディで理解! CRE アウトブレイク, INFECTION CONTROL 2018Vol. 27 No 1 メディカ出版, 2018